

平成 30 年度 第 3 回逗子市自殺対策計画策定等検討会 概要

日 時 平成 31 年 3 月 28 日 (木) 午後 4 時から 5 時

場 所 逗子市役所 5 階 第 2 会議室

出席者

【アドバイザー】成瀬雅水、小保内洋子

【メンバー】池上直樹、竹田幸子、新倉昭治、野中邦一、石澤方理、田崎勝（竹田氏から変更）

【事務局】廣末課長、西海副主幹、青山、佐藤、浅川

【傍聴者】0 名

欠席者

草柳ゆきゑ、中野祐子

議事概要

1 開会

- ・欠席者の報告と資料の確認を行った。

2 議題

(1) パブリックコメント実施結果について

事務局からの報告

- ・1 か月の期間に市内 12 か所の主要な施設に逗子市自殺対策計画案を置き、広く市民からの意見の募集を行ったところ、20 件の意見があった。(詳細な内容については資料 1 参照)
- ・資料 1 では 20 件のそれぞれの意見に対して、市の計画への採否とその理由を示した。いただいた意見を素案に新たに反映するという結果にはならないと整理をしたが、それでよろしいか。

→反対意見出ず。了承いただいた。

メンバーからの質問

- ・意見をいただいた方の性別と年齢は？
→男性、年齢は確認していない。
- ・一人の人が 20 件の意見を出したのか？
→そうである。別紙添付で、記載されたご意見を整理させていただいた。

(2) 今後の予定について

事務局からの報告

- ・「逗子市自殺対策計画」を配布資料の内容で作成する。サブタイトルも「いきるを支

える逗子」とした。

- ・「逗子市自殺対策計画」の51ページにこれからの成果指標を掲載した。
- ・自殺に対する普及啓発、ゲートキーパー研修による人材育成を中心に5年間で実施していく予定。
- ・各課の事業のまとめ(37ページ参照)をしたことで、窓口でのチラシの配布や関連する会議等でゲートキーパー研修が実施できるという意見を福祉部以外の部署からもらった。平成31年度はこのような所にも広げていきたいと考えている。
- ・平成31年度の検討会は神奈川県での研修で新しい情報等が入手できた後、その情報共有することを第1回、計画の進捗状況の報告をする第2回の計2回の開催を考えている。

メンバーからの質問

- ・前回の検討会で配付された計画案と今回配付の計画案は同じものか。
→前回渡した時に資料を差し替えたが、今回はその部分を反映している。その他の内容変更はない。

3 その他

事務局からの報告

- ・計画は改めて印刷し、メンバーに渡す。
- ・自殺対策に関する新しい情報が入ったら、タイムリーに届けたいと考える。

メンバーからの意見

- ・生活困窮の担当をしているおり、最近も自殺をしようとした男性の対応をした。逗子市の中で税金の滞納者等がいたら、早めにあんしんセンターにつないでもらいたい。各課で連携して、スムーズに出来るようお願いしたい。

事務局からの意見

- ・話していただいたことはとても重要なことであり、計画は手段ではなく目的である。大きな目的は市役所全体で自殺対策のことを念頭に各部署での普段の事業において取組を行うためのものである。
- ・毎月、各課長が集まり、報告する機会があり、自殺は組織ぐるみで行わないといけないと話している。全庁的に取り組んでいきたいと考えている。

検討会参加におけるメンバーからの感想

- ・自殺について家族で話すことが出来るようになった。自殺対策の計画がいい形になるといい。
- ・自殺をしようとしている人の見守りが大事。見守る人が大勢いればいるほどサインに気づきやすい。相談するところはいろいろあるので、ちょっとしたことでも相談できたらと思う。

- ・民生委員の役割の多くが一人暮らしの高齢者の見守りになっている。自殺の対策も入ってくると一人で対応を行うのは難しいので、自治会も巻き込んでいきたいと思う。老老世帯や高齢者に特化するのではなく、幅広い対応が民生委員に求められる役割ではないかと思う。
- ・警察では自殺は起きてしまってから取り扱うことが多い。自殺したい人の対応はその人の所に行ってあげる必要がある。メンタル的な部分に問題がある人が多いのでたまに訪問し、兆候を見つけた時にどうするか考えていかないといけない。
- ・我が国は小・中学生の自殺が多い。その家族のことを考えると胸が痛む。経済的な困窮の人等話を聞いてあげてほしい。法務省から SNS を利用した相談を実施すると通知が来ていたようだ。そのようなものが活用できたらと思う。
- ・いじめや不登校の相談が今年の 2 倍以上になっている。検討会で得た情報をもとに教員向けの研修で自殺に関する情報提供をしたら反応が良かった。保育園・幼稚園の巡回相談をした際に、母親のフォローを頼まれたことがあった。また、小学校では子どもの様子がおかしいから母親に話を聞いたところ、母親がサポートして欲しいと SOS を出すケースがあった。自分からはなかなか相談できないのだと思う。

アドバイザーからの助言

- ・自殺対策の実行が課題。次年度も一緒にやっていきたい。自殺をする人は相談に来ない。高齢者では最近、セルフネグレクトの人が多。家族も関わりを拒否してしまう。待っていないで、積極的な介入が必要なかもしれない。
- ・まだ件数は少ないが、司法書士青年部が病院に行ってベッドサイドで相談を受ける試みを行っている。
- ・啓発の部分ではどのような手段を用いていくのか、例えばネットを使う等、具体的な手段が実施できればと思う。
- ・計画は計画として進んでいて素晴らしい。
- ・自分自身、今すぐ何ができるかという、①身近な人に少しでも親切に、少しでもやさしく、少しでも愛を持って接すること。②空間を綺麗にすること、空間を綺麗にするとごちゃごちゃした考えが減り、もともと持っている生命力があがるので、自殺という方向に向かいにくくなる。そういう環境をつくるのが大事。③自分自身の殺したい部分気持ちをなくす。この 3 つが大事だと思っている。来年度もよろしく願う。

4 閉会